

総合計画審議会 意見交換会 会議録

< 出席者 >

赤井委員、石崎委員、内海委員、栗原委員、須藤委員、田城委員、二宮委員、
水嶋委員、米村委員

(事務局)

前回の総合計画審議会において、いくつかの資料について意見を伺ったところである。その中で、自由な意見交換の場が欲しいとの要望があった。次回の策定委員会は 10 月を予定しているということもあり、また、意見交換の場が 1 回はあっても良いのではないかという話であったことから、今回の意見交換会という運びとなった。

今回のテーマであるが、総合計画そのものの作成や、地方創生の総合戦略及び人口ビジョンの作成が求められており、当市ではこれらを同時に策定するつもりである。

総合戦略については、総合計画の重点部分を抜き出す形で、策定する予定であることから、今回の意見交換会においては、総合戦略に係る部分についての意見交換をさせて頂ければと思っている。

資料については、前回の委員会でもご提示したものに加え、既に他市が策定した総合戦略の抜粋である。今回は、既に来上ったものを見て頂き、その中で活発な意見交換をさせて頂きたいと思う。

(委員)

総合計画のタイムスケジュールを確認させて頂きたい。特に中間年で見直す予定はあるのか。現在、神奈川県はかながわグランドデザインの第 2 期実施計画を策定したところであるが、3~4 年スパンの計画を考えている。

(事務局)

総合計画は、8 年計画として、4 年間で中間見直しを考えている。

事務局への問いかけもあると思うが、出来れば今日は委員同士の意見交換をしていただければと思う。

(委員)

市長は、子育て世代から選ばれるまちということを打ち出しており、私も若い世代にそのように思われるまちづくりを目指すことに賛成している。特に今後やっていかなければならないことは、必要なものにお金をかけ、注目を集めていくことである。

市も 6 月にシティプロモーションの担当を作った。市がすでに持っている魅力や、これから作っていく魅力もあると思う。市全体でもう一度魅力を確認し、子育て世代にとってまち

が魅力的に映るように、魅力を発信し、見てもらうようにしてもらいたい。魅力づくりは、市民にとっても郷土愛につながる。

みんなで情報を発信していくことが大事であり、そのようなことを計画で表現できたら良い。平塚市は、近隣市町から頼りに見られている所がある。近隣市町と連携して総合戦略を作っていけば良い。

(委員)

他市の例にこだわらない方が良いと思う。人口減少の対策をどのようにしたら良いかであるが、人口減少には自然増減と社会増減の大きく4つの要素がある。

実のところ、人口減少の要因は超高齢者の死亡によるものが大きい。地方においては多くの場合、東京への人の流れが人口減少の要因と捉えることが多いが、実は高齢者の死亡によるものが要素の一つとなっている。これは避けられないものである。

出生率を大きく高めるといのは無茶である。平塚の実態はわからないが、5年間で死亡者が何人いるのかとか、何年後にはどれくらいの人口になるのであるとか、まずはデータを揃える必要がある。

実は結婚している女性の出生率というのは、約2.0で今も昔もさほど変わっていない。そのため、未婚率の増加や結婚適齢期の女性が減っていることが問題であり、これは簡単に解決できるものではない。したがって、理詰めでのこの辺の数字であれば行けるのではないかというのをはじかなければいけない。このことを良く考えなくてはならない。市民意識調査を成果指標と据えるのは、ちっとも具体的なものではない。

枝葉の事業の成果指標については、アウトプットになってしまう可能性があるという話があったが、初めからアウトプットにするのではなく、アウトカムの成果指標を設定すべきであると思う。

転入出について、どうやったら平塚市を選んでもらえるのかを検討しなければならない。先日、他の委員が発言されたように、湘南に位置する市町を比較整理する必要がある。

例えば、大磯町は歴代の首相が住んでおり、歴史もある町であるが、大磯は平塚の隣にあるからやっていける街である。

例えば、公共施設は隣の茅ヶ崎市に借りるというのもあり得ると思う。なんでも背負込む必要はないと思う。箱根に30分で行けるという立地も利便性の一つである。近隣市のものを借りるという選択肢も入れないといけない。

(委員)

大磯と平塚の関係でいえば、大磯の経済は平塚と深く関連していると思う。江戸時代は、大磯の方が大きかったが、明治あたりから平塚、二宮、学校の誘致に成功していく。経済では中郡の中核は平塚になっていった。平塚北口が物流の拠点で、周囲から人が集まってきていた。

平塚の隣接自治体は平塚よりも人口が少ない。自治体の財政規模も小さい。平塚は周辺自治体への影響力が大きいので、そういった様々な影響を考えないと、平塚というものが見えてこない。交通の面では、北は小田急、南はJRで話がかみ合わない。平塚の中でみても、

特性を客観視してみていかないといけない。

(委員)

経済もそうだが、今後は持続可能な運営をしないといけない。その阻害要因は人口減であるということをはっきりしている。市内の企業に目を向けると、県外への移転などで事業所数の減少が見られる。

他市の総合戦略が良いか悪いかということとは分からないが、国では、2020年に合計特殊出生率1.8を目指すと言っている。平塚市がいつまでにどれくらいにしたいのか、ということが問題。増やすのは難しいが、減らさないようにするための施策展開が必要。

人口1億人を維持するには、合計特殊出生率2.07が必要らしいが、その為には、10人の女性の内7人が3人の子どもを産まないと維持出来ない。あとは、外からどれくらい人が呼べるか。「子育てがし易い」とか「18歳まで所得制限なしで医療費を無料にする」とか、キャッチフレーズを掲げて、平塚市のアドバンテージを見せないといけない。

また、創業する人に対する環境をどう整えるかを具体的に考えないといけない。他の委員から具体的な数字を出すことは難しいという話もあったが、「いつまでにどれくらい」ということを目安に進めることも大切では。

(委員)

中心市街地の活性化を行っていかなければならない。議員になった時には話があったが、それ以降示された記憶がない。現在は、残念ながら空き店舗が増え、七夕も衰退している。行政も商業関係者と意見交換をしてきているが、まちに行きたいと思えるように、この辺のことも見込んで今一度商都として活性化も考えていかないといけない。

(委員)

平塚市のポテンシャルは高いと思う。日産車体が撤退した後、ららぽーとがすぐに入ることになったが、地方ではそういう訳にはいかないと思う。今後は積極的に魅力づくりをしないと、外から人が入ってこない。今までどおりや、同じことをするだけでは駄目だと思う。

(委員)

平塚は以前は何でも湘南で1番、という考えがありませんでしたか。七夕まつり、図書館、博物館。何でも先進、リスクを恐れず1番を目指してきた。ところがある時期から、保守的になってきた。昔は川崎と争って高校を誘致したり、総合公園を国と進めたりしてきた。小、中、高、大学を卒業して、平塚からよそに行って、平塚出身と胸をはっていえるのかどうか。東京でも、平塚と胸を張って言えなければ、何かでUターンしてこない。優秀な人が逃げてしまう。

(委員)

商業のまち平塚、というイメージが一番大きいのでは。20代の頃、伊豆に遊びに行ったが、「七夕の時期に何で伊豆に来たんだ」と言われたことがある。熱海の旅館でも「平塚に買

い物に行く」とも聞いた。私は以前タバコを作っており、秦野に納めていたが、秦野の人も平塚に買い物に行くと言っていた。商業で名を売ったのが大きいのではないかと思う。

(委員)

高齢者になって便利に住むということはとても大事。郊外に住んで便利かという疑問がある。将来的な話かもしれないが、考えていかないといけない。

(委員)

雑誌等で住みやすさランキングというものがあるが、その中でベスト 10 に入ったところでも人口は増えていない。実際のところ、吉祥寺や横浜といった都市の利便性が高いところに人が移住することになる。中心市街地の活性化が大事である。商業振興の活性化は本当の意味で都市機能の活性であると思う。現実的には商店、都市機能の充実が重要である。

先走るが、1970 年代にはやったコンパクトシティの構想に戻るべきだと思う。これからは集約するのが大事であると思う。財政的に苦しい中、都市の利便性を集約する必要がある。

(委員)

商業の活性化も大事だが、自己満足の世界ではないか。市民が本当に望んでいるのかどうか重要。外から平塚市へ流入することにつながるのかどうか。これからどうするのかという視点が必要であって、それがないと昔のにぎやかさを掘り返すのは難しいのではないか。

(委員)

今まではアウトプットで良かったが、これからはアウトカムが重要で、それをどう活用していくか。住民の視点に立ったまちづくりという観点にもっと深く入り込んでいかないといけないと思う。

(委員)

中心市街地にある集合住宅の再開発は 3 年かかった。地権の関係で複層しているが、よそができないのは根性がないからである。出来る前提で本気になれる人が何人いるかが大事である。

行政にはバックアップをしてもらった。行政のバックアップが大事であると思うが、中心商店街という小さな話ではなく、まち全体として機能集積するという大義名分があればできるのではないか。

(委員)

伊勢原市では、東と西で小田急線の引っ張り合いをしている。現在のコンパクトシティは、今の集落の形になってしまう。

(委員)

福島県のある町は、東日本大震災により大きな被害を受け、駅も流されてしまった。その

付近の都市計画がすすんでいる。住民は数千人、海側は大震災で全滅状態で、高台移転と盛土での街づくりの計画を進めているが、住民の理解で進んでいる。そもそも地籍調査が100%できていた。神奈川は低い。

コンパクトシティが理想なのか、北金目の方まで広げていくのがよいのか。コンパクトにすれば、あちこちに公民館や、郵便局、交番、電気の配電もいらなくなる。メリット、デメリットあるが、5～10年後ではなく、20、30、50年後を考えたならそういう方向になる。ツインシティの街づくりを進めているところだが、そういうことを見据えていかなければならない。それと地籍調査、基本的なところをやっておく必要がある。

(委員)

昭和30年頃に平塚では大合併があり、色々な町や村が統合された。市と村の関係で色々あったとも聞いているが、地域毎のまとまりもあり、平塚では地域毎に公民館がある。市長さんは4年前、それを強みとして標榜されていた。

(委員)人口が減っていく中で、これからは統合しないといけない。統合してなくなるのは1つや2つではないと思う。

(委員)

子育てや教育がこれからのまちを考えると必要なことだと思う。自分は平塚の郊外だが、郊外でいいと思っている。報道では、田植えの体験が取り上げられるが、自分が通っていた小学校ではあたりまえのこととして経験していた。そのような経験が今思えばよかったという思いがある。思い出は、小さいうちに経験するからこそ残る。一度平塚市を離れても、将来的に戻ってくる子も増える。

高齢者や子どもを育てやすい、暮らしやすいまちにするために中心商店街の活性化があると思う。中心商店街の活性化ありきで考えると中身の無い計画になってしまう。駅前に託児所があれば、そのまま仕事に出られると思うので、駅前に十分な学童や託児所があれば武器になると思う。

(委員)

仕事上、学童指導員として子育て支援をやっており、市民と転入転出の話をする機会があるが、小学校に上がってからの引っ越しも多く、近隣に学校や学童があるのが引っ越しの理由というも周りには多くいる。また、以前平塚市に住んでいたことから戻ってくるという人も多いようである。おそらく、自分が子供のころに住みやすかったというものがあるのではないかと思う。近くに両親が住んでいるという理由もあると思うが。

中心市街地の活性化というものもあるが、テレビの情報番組や、フリーペーパーで紹介されるお店の中には、まだまだ自分が知らないお店があることに気付かされた。活性化も大事であると思うが、平塚市全体のお店をみんなに知ってもらうことが大事であると思う。魅力の発信が必要である。

(委員)

分散してしまうという意味、郊外を切り捨てるのではない。

ある市長の話で、ロードサイドショップの出来始めで、ショッピングセンターができたということで、そこまで道を整備した。そうすると、雪の雪かきの費用がばかにならない。あと始末は行政、中心街からショッピングセンターまで道の雪かき、行政の費用がほっとくと出てくる。集約、再投資、そういう意味のコンパクトシティ。

(委員)

土地の利用という面では、平塚は借地権が多い。市は実態や数の調査はしていないとの回答だったが、税担当課辺りが把握しているのではないか。特に国道一号沿いは借地権が多いので、市が実態を把握していないといけない。他所がガチャガチャやると上手くいかない。

(委員)

先程話があった地域でという考え方が必要であると思う。その方がいろいろな点で目標を立てやすいのではないか。

(委員)

根本的な点として、全国で人口減少を食い止める施策を打ち出すことになると思うが、本当に出来るとは皆思っていないと思う。人口を増やすことや維持することは無理であると思う。このことについては成り行きで良いのではないかと思う。平塚市が良い、残りたいと思う人のためだけの施策をすればよいのではないかと思う。日常生活の利便性など、いろいろあれば成果は後からついてくると思う。

(委員)

子育てでいうと、私の住む所も郊外だが、住宅地ができたときに、最初入る人が30代が多かった。その当時はコンビニが近くになく、乳母車を押しながら遠くのコンビニまで歩いていくような状況で、それが子どもが2人や3人、4人という家族も結構いた。

こういう環境がよいのかなと思っていたが、聞くと去年からもう下降線、なんだもう終わりかと思った。20年経つと、若者が出ていく時代になる。良い環境で子育てがよいのか、高層マンションに入るのがよいのかどうなのか。

(委員)

環境も含めて住むのか、条件が良いから住むのか。

親世代が残っても、結局は子供が出て行ってしまうと、市の負担は増えることになる。子育て世代に住んでもらっても、その子供が残らないと一過性の人口増でしかない。

魅力を高めて、自力を付けないといけない。その為の具体的な施策を展開していかないと、外から来た人は出て行ってしまう。

(委員)

都市の面積や立地をどのように捉えるかだと思う。関東全体で見れば平塚市は西側に位置するが、神奈川県で見れば中央である。行政ラインを見誤ってはいけない。

平塚はなんでも初めに手を挙げるとい資質があると思う。10月上旬に次回の総合計画審議会があると思うが、意見交換会の内容を反映させた方が良いと思う。

前回の資料の総合計画の振り返りにおいて、産業に関することの成果はよくなかった。そのため、今後はどの施策にどの部が関係しているのか、責任の所在をはっきりすべきであると思う。

次期総合計画はしっかりしたものを作成して欲しい。

(委員)

6月の広報でしたか、市長コラムで、社会保障費を若い人が支えるというような内容、ある程度生産年齢人口がいないと支えられない。子育て世代は共働きで、おじいちゃんおばあちゃんが子育てしないと。親の介護と両立となると難しい。市の財政が圧迫されるので、若い人が欲しい、財政を支えるために若い人が欲しい税収を増やしたい、とざっくばらんに言った方がわかりやすい。

(委員)

人口動態の予測では、今後人口が減っていくことは間違いない。推計に出ているよう、黙っていれば22万人になり、経済も停滞してしまう。都市間競争になるかも知れないが、そのペースを何とか遅くしていくことが必要。広域化も視野に入れたいといけない。

(委員)

人口減少は仕方ないこととして言っていけないといけない。奏プラン(教育振興基本計画)の指標では、目標値を年々右肩上がり設定するが、人口減少を考慮して考えていくのが良い。

セグウェイは公道で走らすことが出来ないが、つくば市では特区として認められた。平塚市では、相模縦貫道路ができたが、江の島方面に人が流れてしまう。平塚市も特区とすることができれば、電動アシスト自転車と組み合わせ、市内を走らせることができる。他の自治体でやっていることを後追いでやってもインパクトがないので、これについてはスピード感を持ちながら、実現したいと思っている。

(委員)

平塚市としての歴史が浅いせいか、地域ごとに特色やプライドがある。全部ひっくるめて、平塚といっても、地域では面白くない。大野村、金目村・・・、歴史、成り立ちをわかっていないとまちづくりがうまくいかないのでは。今の平塚のことを、子どもたちがどれだけ知っているか。知らないことだらけ、それでは平塚への愛着がめばえないのではないか。歴史、産業、しっかりとどれくらい教えられるのかによって、変わるのではないか。

(委員)

私は長年平塚に住んでいるが、住んでいる人も平塚について知らないことが沢山ある。先日キュウリの生産が有名であることを初めて知った。製造業も湘南地域では藤沢を抜いて平塚がダントツである。市内の人であっても、平塚のどこが凄いのか分かっていないことがある。

(事務局)

今日は活発な意見交換が出来たと思う。この辺りで閉会とさせていただければと思うがいかがか。

現在の進捗について事務局から説明させていただく。

(事務局)

現在は、先日の総計審に出した施策調書の文言等を精査し、冊子化に向けて作業を進めている。

以上